



2006・秋
発行：法問寺
題字：鈴木裕子

お彼岸がまいります・・・

お釈迦様が説いた教えは「どうしたら人は幸せになれるのか」ということが基本テーマになっている。まず知っておかなければならない「此岸（しがん）」と「彼岸（ひがん）」の存在である。自分の前に大きな川が流れていると想像してみよう。自分がいるほうを「此岸」、川をはさんだ向こう側を「彼岸」とする。仏教では私達が住んでいる此岸は凡夫（ぼんぷ）の世界、彼岸は仏の世界と考える。此岸は、煩惱にあふれた世界だと説かれ、彼岸は煩惱の炎がすっかり消えた涅槃（ねはん）の世界である。お釈迦様は此岸からこの大きな川を渡り、彼岸に行くための方法を説いた。



此岸にいながら彼岸に渡る

六つの方法 六波羅蜜の実践

布施（ふせ） 「与えよう物でも心でも他人に施すこと。自分の物・心を施させていただくこと。
持戒（じかい） 「生きよう人間らしく戒めを守り、保つこと。人に迷惑はかけず、約束は守ること。

忍辱（にんにく） 「耐えようどんなことにも」
苦しめてもじっと耐えること。怒りの気持ちを起こさないこと。
精進（しょうじん） 「勤めよう自分の仕事に」

彼岸の中日もなるので、お寺やお墓参りをし、ご先祖さまに感謝をしましょう。

禪定（ぜんじょう） 「落ち着こう息を整えて」
精神の統一・集中。
日常の一挙手・一投足を大切にすること。



智慧（ちえ） 「目覚めよう誠の道に」
物事を正しく見据え何の曇りもない正しい判断力を持つこと

お彼岸の一週間にこの六つの徳目を実践することが彼岸に到達する近道でもあるわけです。

法問寺花だより 鈴木裕子

早いものでもう、朝晩にはすっかり秋の気配を感じる今日この頃です。今年の夏は、我が家には、ちよっと寂しい夏になりました。ちょうど暑さが押し寄せ始めた頃に、十年半、共に暮らしてきた大事な家族がひとり、お空に旅立ちました。
ゴールデンレトリバーの「インディ」です

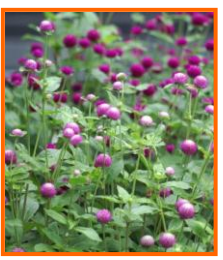
大好きな檀家の皆さんにも、たくさん、かわいがって頂きました。ありがとうございます。



このつらい別れを悼むように、そしてインディのお供をしたい！、とても言うように、今年はおリエントル



リリーが、六月末から咲き始めました。花が大好きだったインディの旅立ちに、大輪のユリを添えてやることができました。そのかわり、お盆に、皆さんに見て頂きたかったはずが、ほとんど終わってしまいました。



そして、念願だった、ピンクの「ノウゼンカズラ」が我が家に来ました。これも、インディが作ってくれた縁で、遠く、長野県佐久市から来たのです。

また千日紅は、檀家さんから頂きました。私も大好きな花なので、とてもうれしい贈り物でした。

夏中楽しんで、今もかわいい花をつけています。あいにく、私が肩を痛め、今年の夏は、大汗をかきながら住職が花の水遣りを担当してくれました、感謝。どんなときも、花は心を和めてくれるのだと、改めて実感した夏でした。

☆住職と鈴木裕子の奉仕活動報告その他

- 六・七・八月 日本赤十字社幼児安全法講習会指導（鈴木裕子）
- 七・八月 日本赤十字社救急賞養成並びにAED講習指導（鈴木裕子・住職）
- 九月一日 東京都・足立区合同防災訓練参加 西新井橋河川敷にて高校生に三角巾包帯法及び非常炊き出し指導（住職）

★十八年七月～九月までの訃報★

八月十四日寂 鈴木アイ様 八十五歳
愛月慧照信女位

◇編集後記 住職

七月のお盆が終わって間もなくしばらく気にならなかつた腰痛が始まり、知り合いのお寺さんから紹介された鍼に行ったりしましたがあまり効果なく、たまたま近所にオープンした整体治療に通うことになり、なんだか少しづつ痛みも緩和されてきました。同封案内参照 気になる方は行ってみて下さい・・・ 今年の夏は愛犬も亡くなってしまっ少々（いやいや大分）寂しい夏でした。生・老・病・死を考える夏でもあり、十年間生活を共にしてくれて、有り難うと愛犬に別れを言いました。

南無南無